

市民活動推進事業に対するコメント概要

事業名		第2回今治発BraveHeart楽団チャリティコンサート					
実施団体名		一般社団法人Brave Heart楽団					
事業概要		<p>【事業目的】</p> <p>障がい（発達障がい含）や病を持つ子ども達に心のサプリメント（音楽）により心の安定を提供し心のバリアフリーを感じてもらう場作りを通し、健常児も交えて偏見や差別のないワンネスな世界への架け橋となる活動と保護者交流の場としての提供につなぐ。</p> <p>【事業内容】</p> <p>リアルでの出演と入院中や在宅ケア児らのオンライン出演共にできるよう企画し、11月25日にカトリック今治教会を会場として第2回チャリティコンサートを行いました。支援・協賛団体と連携しながら子どもだけでなく大人や観客の方にも積極的に参加してもらい、シンガーソングライター杉山明氏にゲスト出演していただき盛況となりました。オンラインでの視聴申し込みは34名、当日来場者数は約50名で、昨年度を遥かに超える市民の皆様にご足を運んでいただきました。</p>					
事業の発展性		2回目のチャリティコンサートということで、徐々に団員も増えてきている。また実施にあたってはオンライン配信や遠隔地の団員の出演など、外向きに広がる要素を取り入れている。今回得られた課題の解消に向けて見直しを行うと共に、今後は新たに慰問活動なども考えている。					
補助額		市補助額	500,000 円	総事業額	830,395 円	補助対象経費	786,994 円
コメント	実施団体	<p>＜事業を実施しての効果＞</p> <p>親たちのみならず障がいなどを持つ子ども達自身も達成感を得ることができ、また自己肯定感や協調性を高めることができた。プロの方や遠隔の出演者と直接会って交流の機会を得て普段と違う色々な体験ができたことも、子ども達の積極性を伸ばす一助になった。さらに、チャリティーということで、普段応援される側にいることが多い障がい児・者も、自らのパフォーマンスによって、応援する側にも立つことができることが実践され、だれもが社会貢献できるという自信に繋げることができたのではないかなと思う。</p> <p>＜事業を実施しての問題点＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・zoomで視聴や参加ができるようにしていたが、オンラインがうまくつながらなかった。 ・事業実施に際しプロの方と温度差などもあり、うまく機能しきれなかった。 ・チャリティーのためチケット代を設定していたが、金額の設定の仕方がうまくいかなかった。 <p>＜問題点に対する解決策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二年続けてオンライン配信がうまくいかなかったので、場所を再検討する。 ・どのようなコンサートにしたいのか、現地団員、遠隔地団員、応援してくれる方々などと、もっと事前に綿密な打ち合わせを重ね、さらに良いコンサートになるよう努力していく。 ・チャリティーの寄付については、コンサートの当日やコンサート視聴後に行ってもらうようにし、まずはコンサートに足を運んでもらうよう努力する。 					
	市民活動推進委員	<p>＜総評＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自発性は有るが継続性には課題が見られる。第3回以降も継続実施するとのことだが、出演料が多くかかっており継続する場合の事業縮小が心配される。 ・一般参加者が少なく感じられ、公益性に少し疑問が感じられる。事業目的を考えると是非継続していただきたいコンサートだが、予算等に課題が多いのではないかな。広報活動にも力を入れると集客数が上がると思う。 ・オンライン配信がうまくいかなかったのは残念だが、皆さんが達成感を得ることができたこと、自信につながったということで事業の効果があつたと思う。配信の不具合に関して、コンサートの記録DVDを送付するなど手厚くケアすることで、遠くの方とのつながりを作ったり強化されていると感じた。 ・質疑のとき、領収証の内訳について確認すると一部に違う費目のものが含まれていたが、その辺りをクリアにすれば第三者にも分かりやすく、自分たちも実際の全体費用を把握できる。内訳や但し書きをきちんと書いていただき決算書に適切に表示することをお願いしたい。 ・次回以降は予算組をしっかりと、徐々に観客と出演者相互のやり取りを増やしていけば、素晴らしい事業になると思う。 					

市民活動推進事業に対するコメント概要

事業名		第2回今治発BraveHeart楽団チャリティコンサート
実施団体名		一般社団法人Brave Heart楽団
コメント	推進委員 活動	<ul style="list-style-type: none"> ・予算書と決算書でかなりの差異が見られる。出演するプロの方などと費用面で上手く意思疎通できていなかったということだが、場合によっては事業への影響が大きいの、齟齬のないように努めていただきたい。 ・当初の予算書の組み方を精度高くできれば事業実施もよりスムーズになるかと思います。 ・団員数も増えてきたということで今回の助成金が底上げにつながって、ハンデのある子どもたちも含め楽しい居場所づくりが増えていけばと期待します。